

令和6年度 鹿児島県 HPAI机上演習

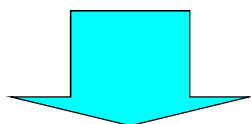
令和6年9月4日(水)

鹿児島中央家畜保健衛生所

1

本演習の目的

高病原性鳥インフルエンザ（HPAI）発生時の
各関係機関の役割と連絡体制の整備及び
防疫作業内容の確認



発生した際の迅速で的確な初動防疫対応

2

各機関の役割分担

機関	役割
県家畜防疫対策課	県対策本部事務局 情報の整理・提供，国との協議
家畜保健衛生所	発生農場等の防疫措置 ウイルス浸潤状況確認のための検査 (疫学調査，発生状況確認検査，清浄性確認検査) 制限の対象外等に関する協議
地域振興局・支庁	地域連絡協議会 防疫措置への協力
市町村	市町村対策本部 防疫措置への協力
関係団体	農場情報の提供 疫学調査等への協力

3

農場の配置図



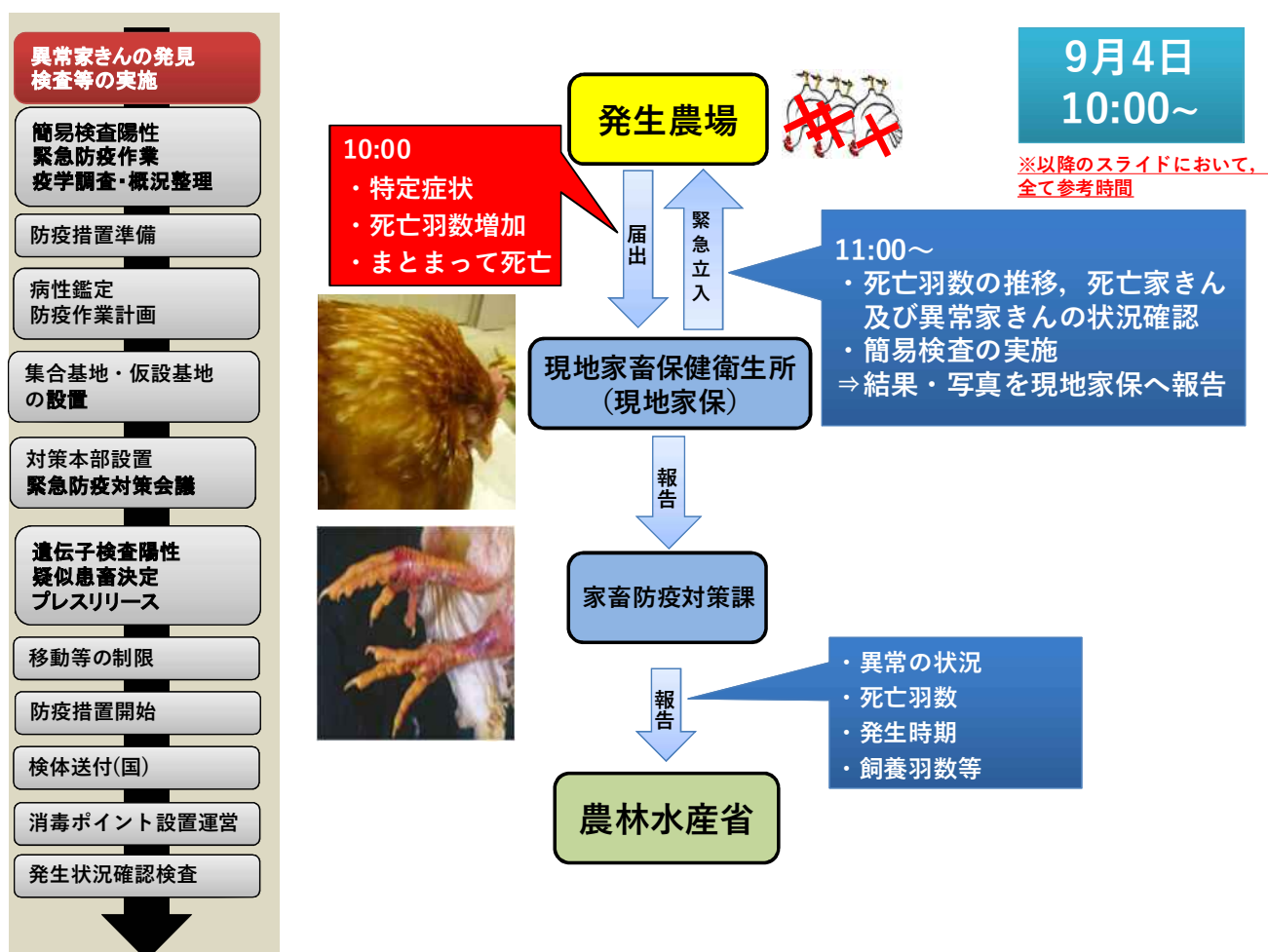
4

農場概要

発生農場	A 農場
農場所在地	南九州市知覧町
飼養形態	採卵鶏
飼養羽数	約 7 万羽
日齢	300日齢
鶏舎構造	ウインドウレス鶏舎 1 棟 <div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 全長 12×90m ・ 構造 2 階建て直立 4 段 </div>
埋却予定地	農場敷地内



5



6

異常家さんの発見→緊急立入

9月4日 10:00 家畜保健衛生所に死亡羽数増加の連絡

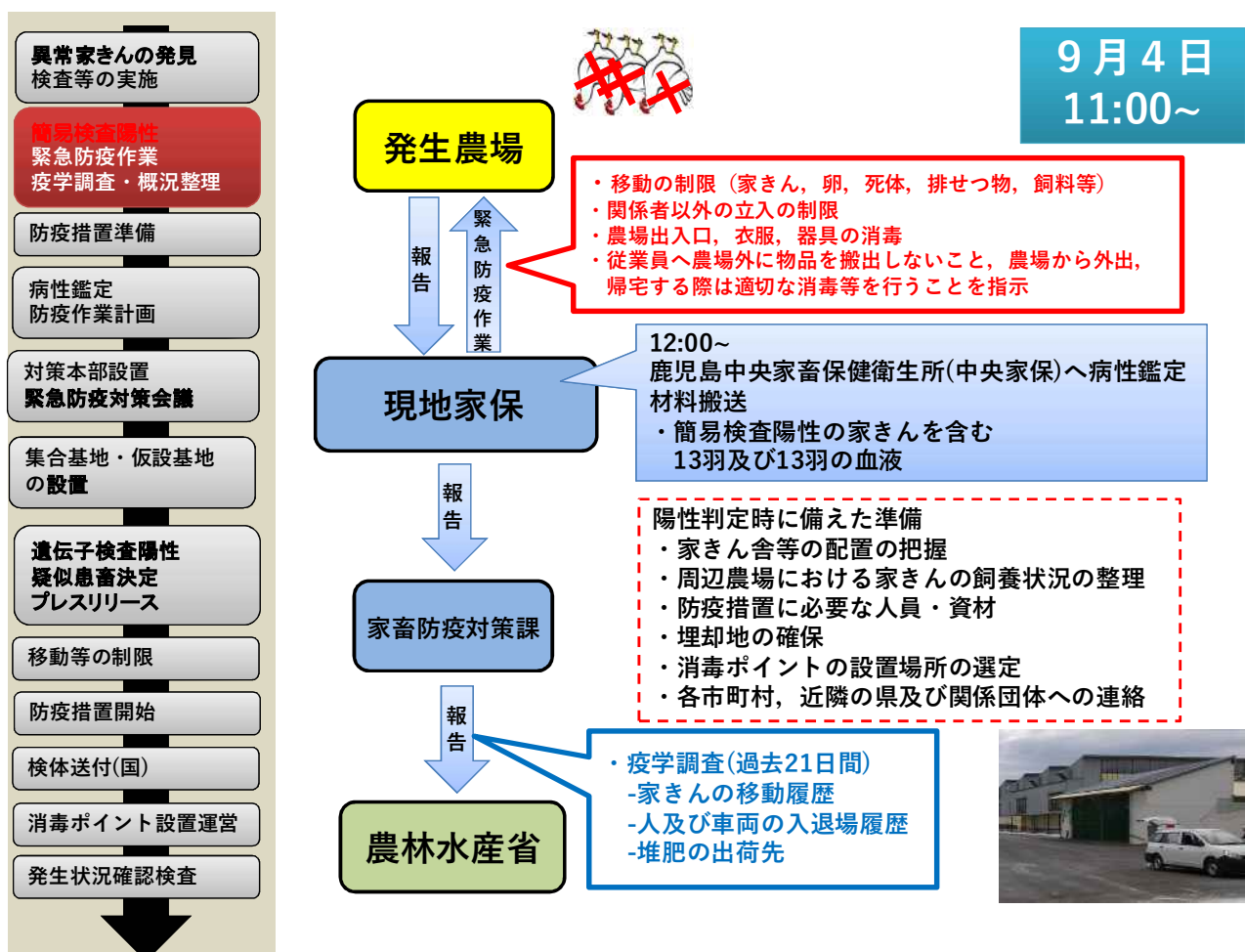
11:00 家畜保健衛生所が農場に立入り、
死亡鶏11羽、衰弱鶏2羽 計13羽の
気管スワブ及びクロアカスワブを材料に
鳥インフルエンザの簡易検査を実施



13羽中10羽検査陽性

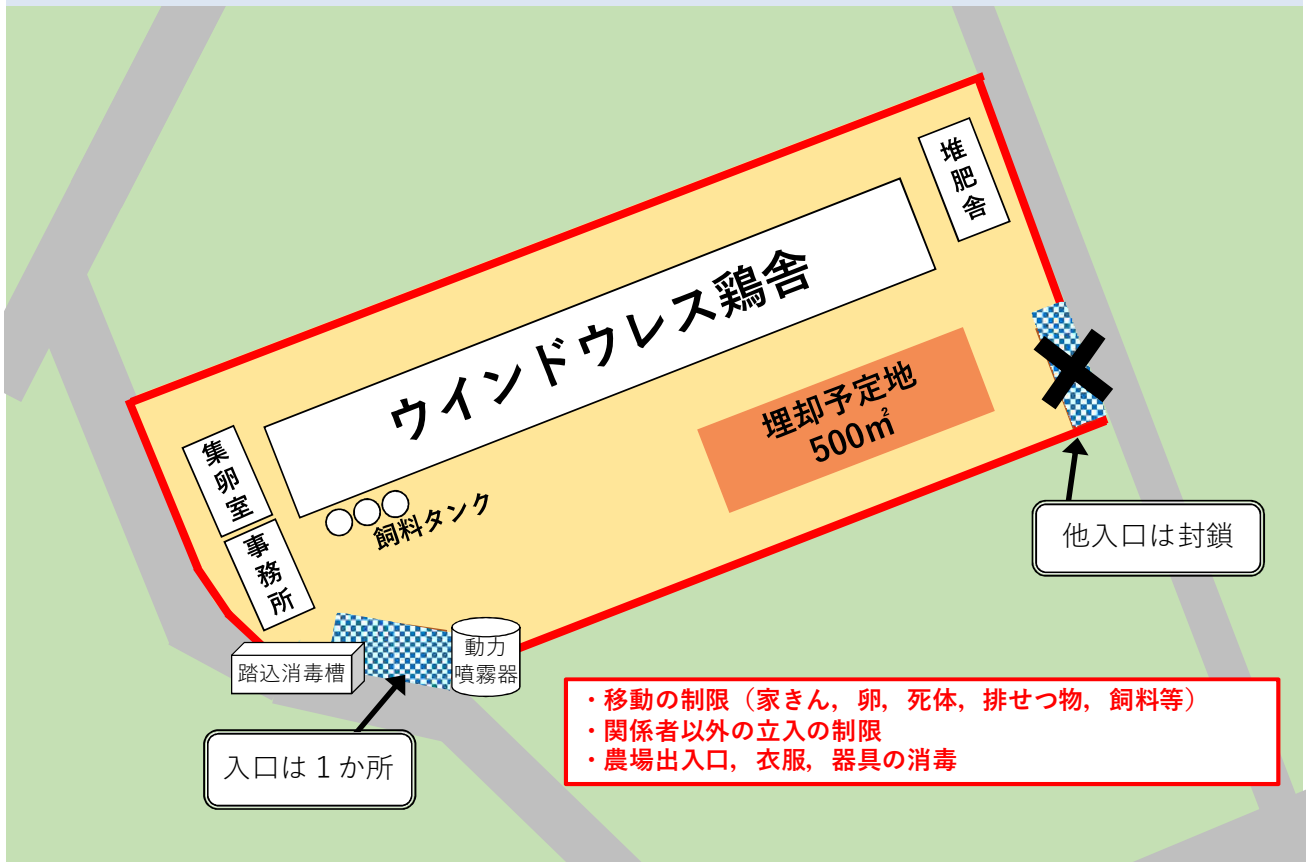


7



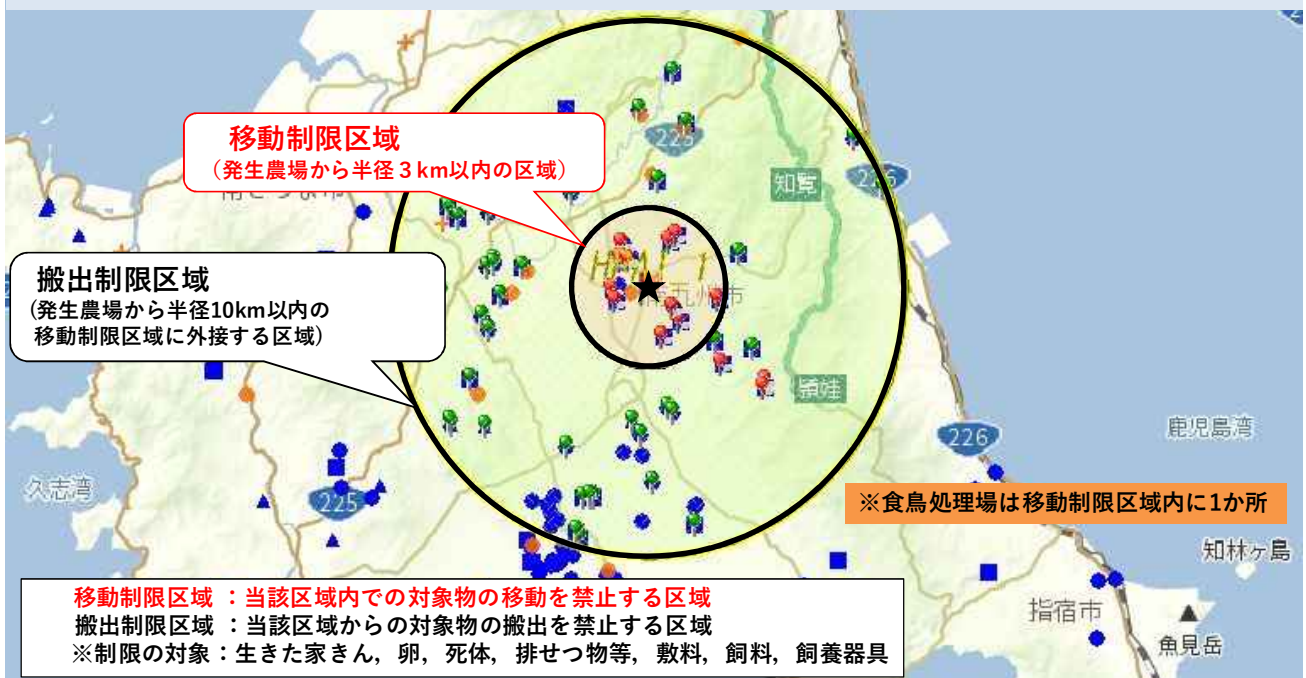
8

緊急防疫作業



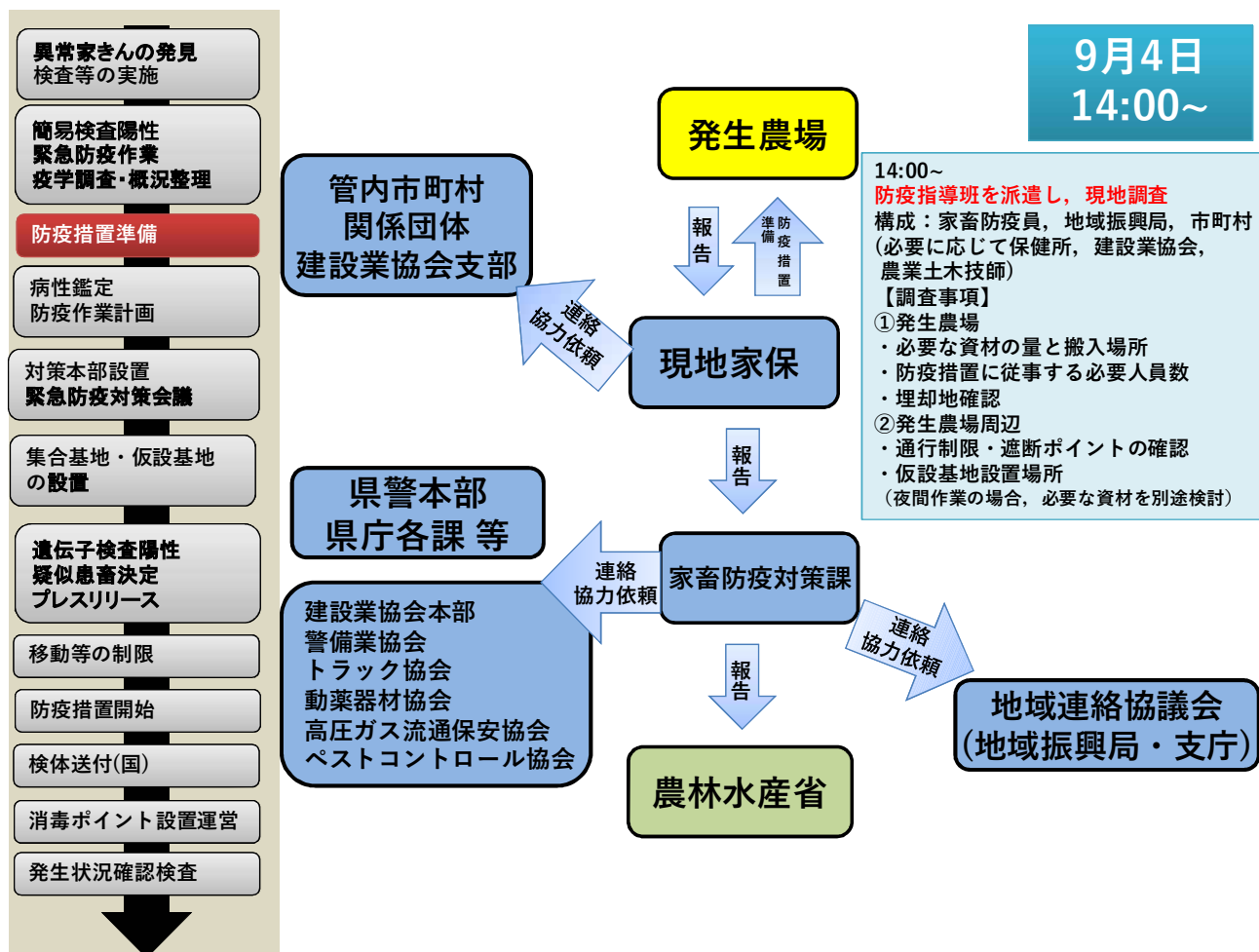
9

制限区域内の家きん農場戸数と飼養羽数



制限区域	範囲	家きん農場 (戸)	飼養羽数 (羽)
移動制限区域	0～3km	17 (採卵2, 肉用14, 種鶏1)	564,992
搬出制限区域	3～10km	41 (採卵17, 肉用19, 種鶏4, うずら1)	1,986,028
	計	58	2,551,020

10



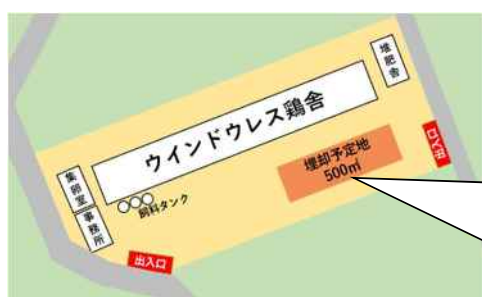
11

埋却地

防疫指導班による事前準備してある埋却予定地の現地確認

埋却地について

- ・ 人家，水源，河川及び道路に近接しない場所であって，日常，人及び家きんが接近しない場所
- ・ 洪水や崩落の可能性がない場所
- ・ 最低 4 m 程度の掘削が可能であること
- ・ 埋却後 3 年以上，発掘等を実施する予定がない場所
- ・ 機械（特に重機），資材の搬入が容易である場所



12

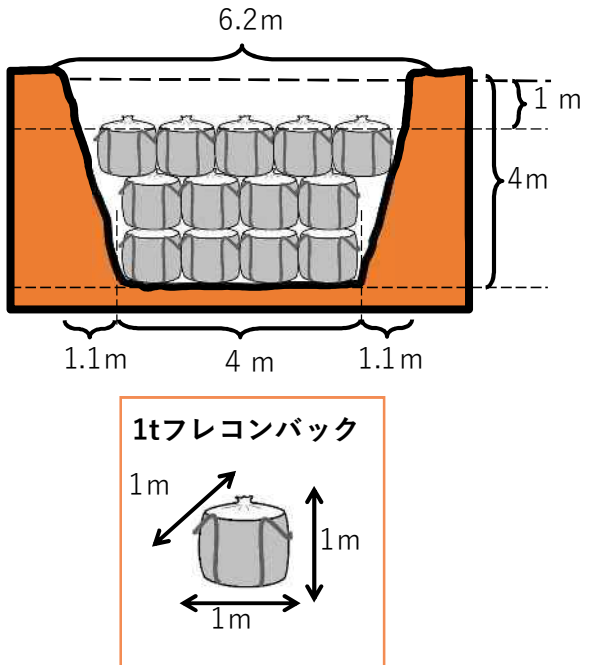
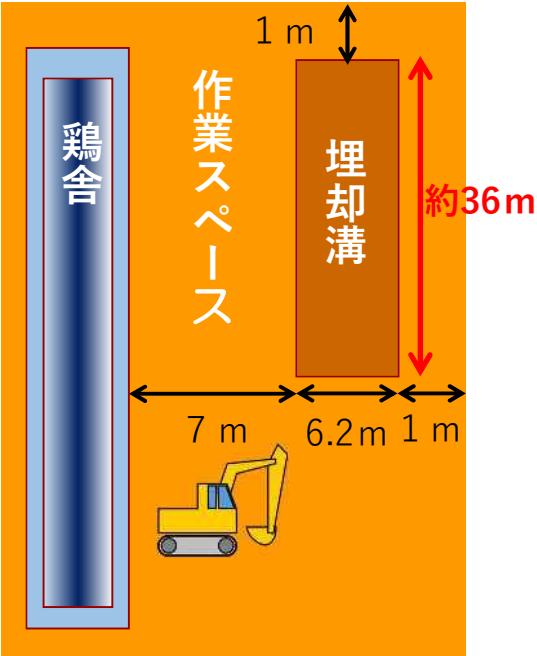
埋却地

鶏の埋却に必要な標準的な面積例（飼養衛生管理基準）

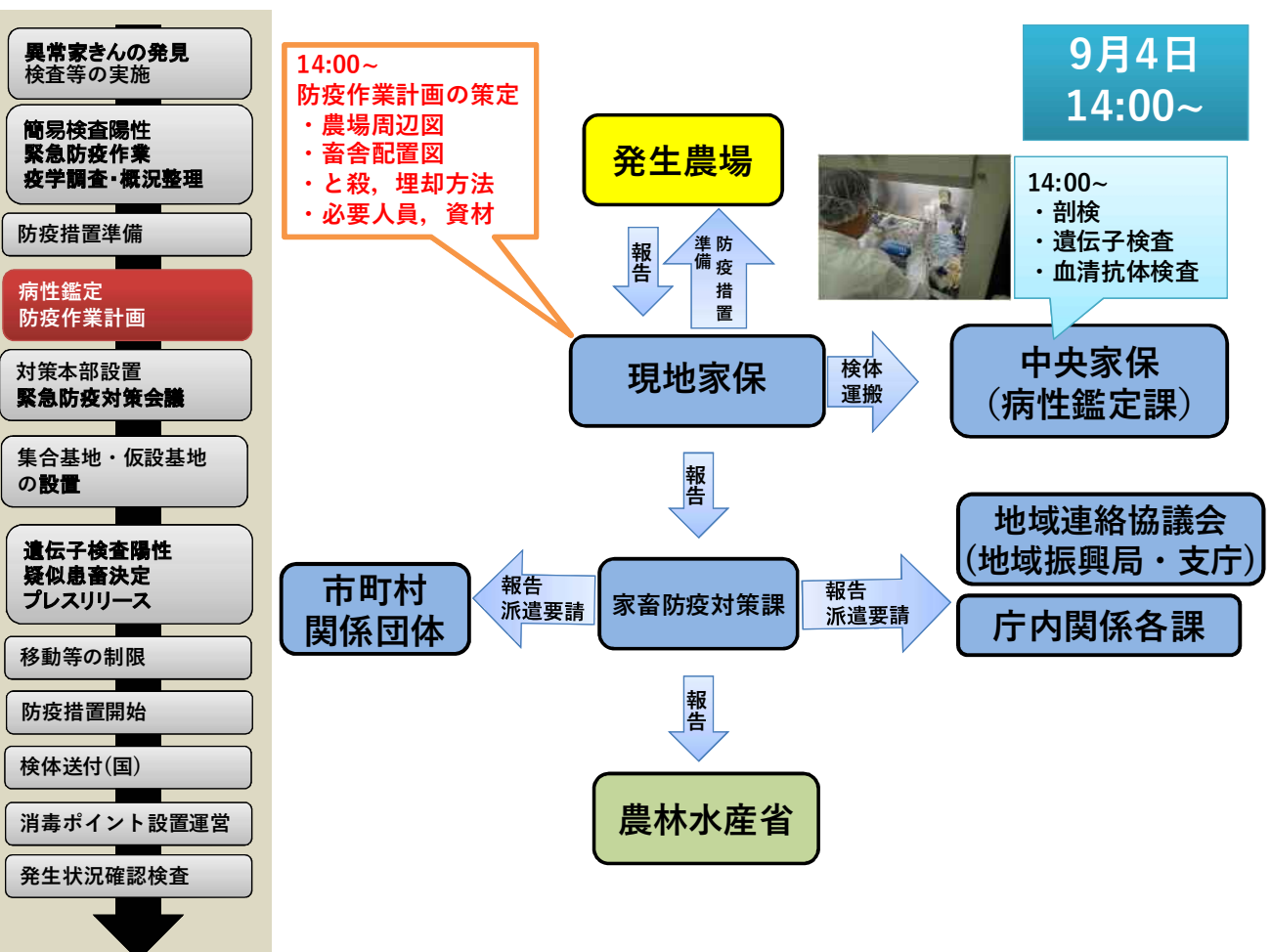
成鶏 100 羽当たりおおむね 0.7m^2 が標準とされている

平面图

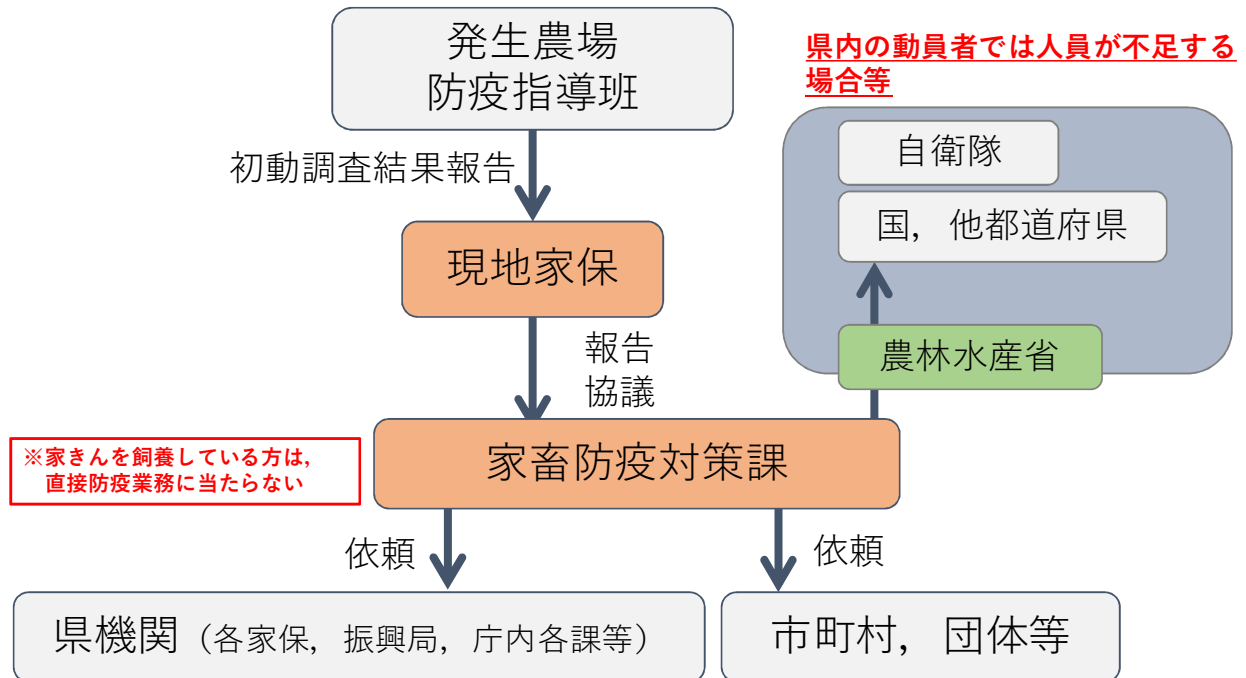
断面図



13



防疫措置従事者の確保依頼



→防疫措置従事者は指定された時間に集合基地へ集合

15

防疫作業計画の策定

- ・ と殺方法 二酸化炭素によるガス殺
- ・ 搬出・運搬方法 台車を用い鶏舎から搬出，鶏舎外でフレコンバックに梱包後重機を用い埋却地へ運搬
- ・ 清掃・消毒方法 鶏舎内の排せつ物の除去，動力噴霧器を用いて逆性石けんで消毒，消石灰散布
- ・ 埋却方法 と殺した家きんはフレコンバック梱包後埋却
- ・ 汚染物品処理方法 家きん卵，排せつ物，飼料等はフレコンバック梱包後埋却

16

防疫作業計画の策定



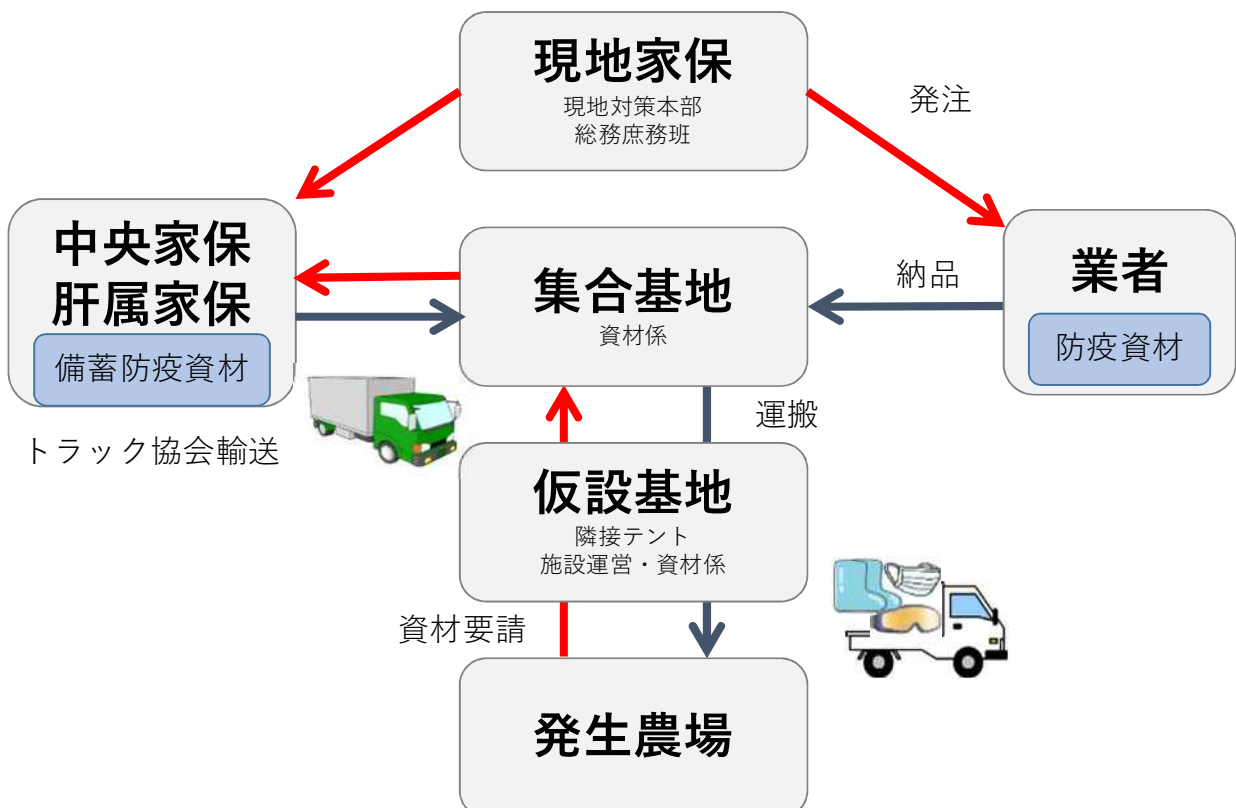
グレーチングの通路



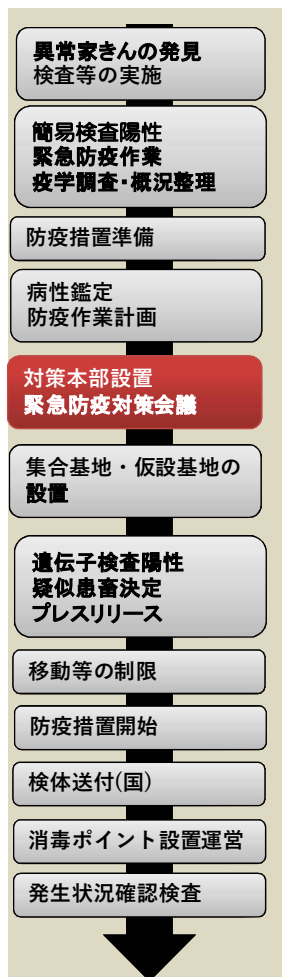
台車が通れるように鶏舎の通路にコンパネを設置

17

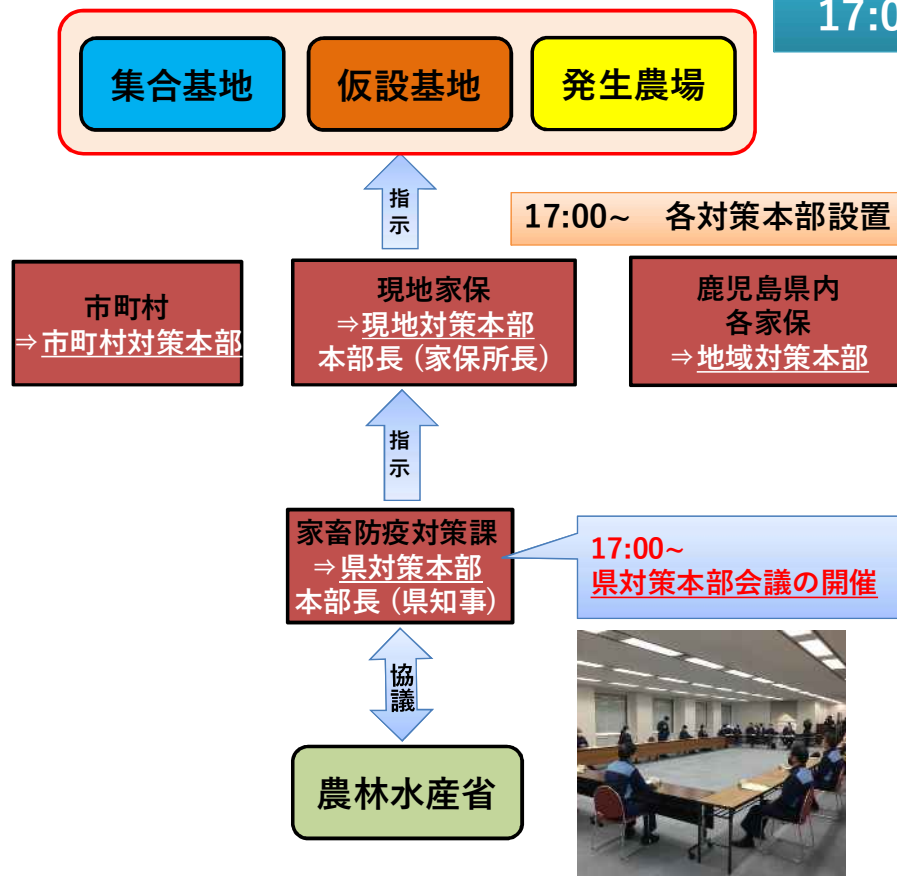
防疫資材の供給の流れ



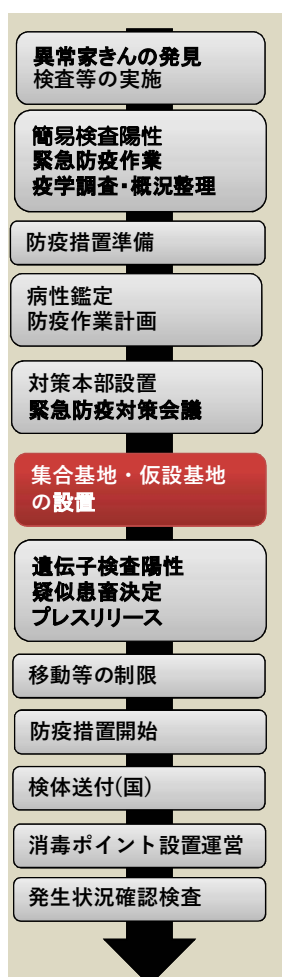
18



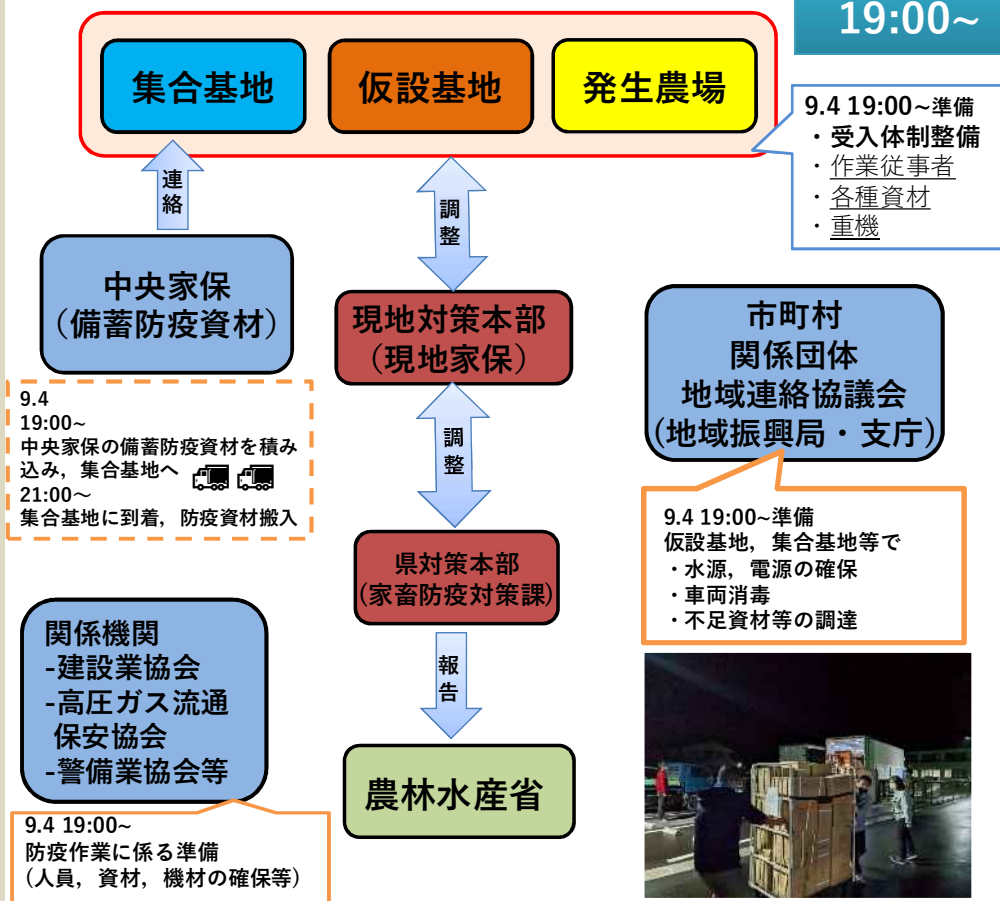
9月4日
17:00~



19



9月4日
19:00~



20

集合基地・仮設基地

集合基地

- 各地から集まる防疫措置従事者の集合場所
- 全体の作業内容の説明，防疫服への着替え，防疫資材の配布等を行う

南九州市の知覧体育館(発生農場から約1 km)



移動

仮設基地

- 発生農場の隣接地に設置
- テントやコンテナハウスなど
- 防疫措置従事者のサポート，防疫資材の管理・配布等

発生農場隣接地にテントを設営



23

集合基地（内側）



24

防疫服・防疫用具の着衣等手順

集合基地

- (1) 防疫服の装着
- (2) キャップの装着
- (3) 防疫服の前後に担当業務名、名前(カタカナ)を記入
- (4) 移動用サンダルに履き替え



↓(バスで仮設基地に移動)↓

仮設基地

- (5) マスクの装着
- (6) 内側手袋(薄手)の装着
- (7) 外側手袋(厚手)の装着
- (8) ゴーグルを装着
- (9) 外側手袋の目張り
- (10) 長靴の装着
- (11) 長靴の目張り
- (12) 着衣完了



農場など (汚染ゾーン)

(農場に入場)

25

防疫服・防疫用具の脱衣等手順

農場など の境界

- (1) 動力噴霧器等による**全身消毒**



↓(準汚染ゾーンへ移動)↓

仮設基地の 農場側入口 (準汚染ゾーン)

- (2) 手袋・長靴の目張りの廃棄
- (3) 外側手袋・ゴーグルの廃棄
- (4) 防疫服の廃棄
- (5) マスク・キャップの廃棄
- (6) 内側手袋の廃棄



↓(仮設基地に移動)↓

仮設基地内 (清浄ゾーン)

- (7) 長靴を移動用サンダルに履き替え
- (8) 手洗・洗顔・うがいの実施
- (9) 荷物等の受取



↓(踏込消毒後、バスで集合基地に移動)↓

集合基地

- (10) 帰宅用衣服※の着替え

※帰宅用衣服は各自で用意・持参

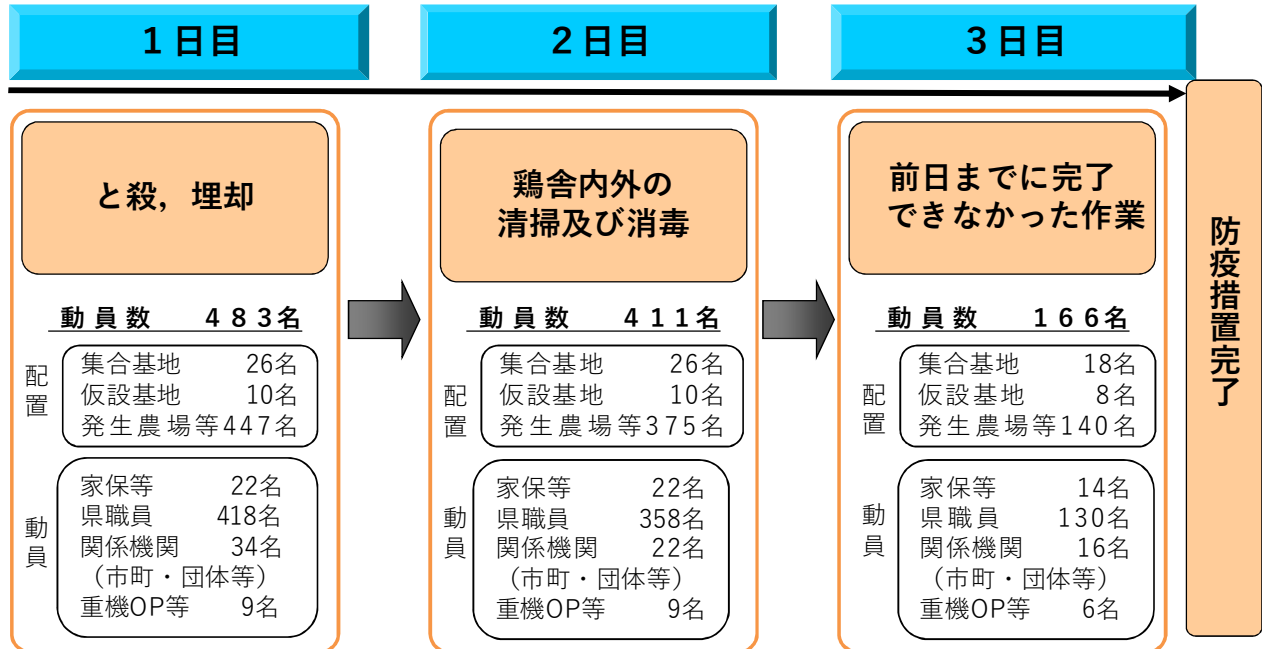
26

発生農場の初動防疫に係る配置・動員体制

3日間で計1,060名が必要（参考数値）

< 設定条件 >

- ・ 飼養規模：70,000羽（採卵鶏）
- ・ 初発のみで封じ込め
- ・ HPAI疑似患者決定し、消毒等の病原体拡散防止後24時間以内でと殺を終了



27

発生農場の初動防疫人員と役割分担

採卵鶏7万羽，ウインドウレス2階建て，4段ゲージ，農場内での埋却を想定

所 属				1 日 目 総人数数	人 員 配 置						2 日 目 総人数数	人 員 配 置						3 日 目 総人数数	人 員 配 置					
					集 合 基 地		仮 設 基 地		発 生 農 場			集 合 基 地		仮 設 基 地		発 生 農 場			集 合 基 地		仮 設 基 地		発 生 農 場	
									総括	と殺作業 ※ 2						掘削 重機OP	※ 4						※ 3	掘削 重機OP
家畜防疫員				22	8	4	6	4	※ 4	22	8	4	6	4	※ 4	14	6	2	2	2	2			
防疫措置 従事者	県職員	本庁	農政部	57	5	2		50		27	5	2		20		37	2			35				
			他部	136				130	6	86				80	6	10				10				
		振興局	農政部	159	7	2		150		79	7	2		70		75	4	4		55	12			
			他部	66				60	6	166				160	6	8				8				
		小計			418	12	4	0	390	12	358	12	4	0	330	12	130	6	4	0	108	12		
	関係機関（市町・団体等）			34	6	2	0	26	0	22	6	2	0	14	0	16	6	2	0	8	0			
	重機オペレータ＋世話役				9				9	9					9	6					6			
合計				483	26	10	6	420	21	411	26	10	6	348	21	166	18	8	2	118	20			

※1 保健福祉部については、健康調査要員として配置。

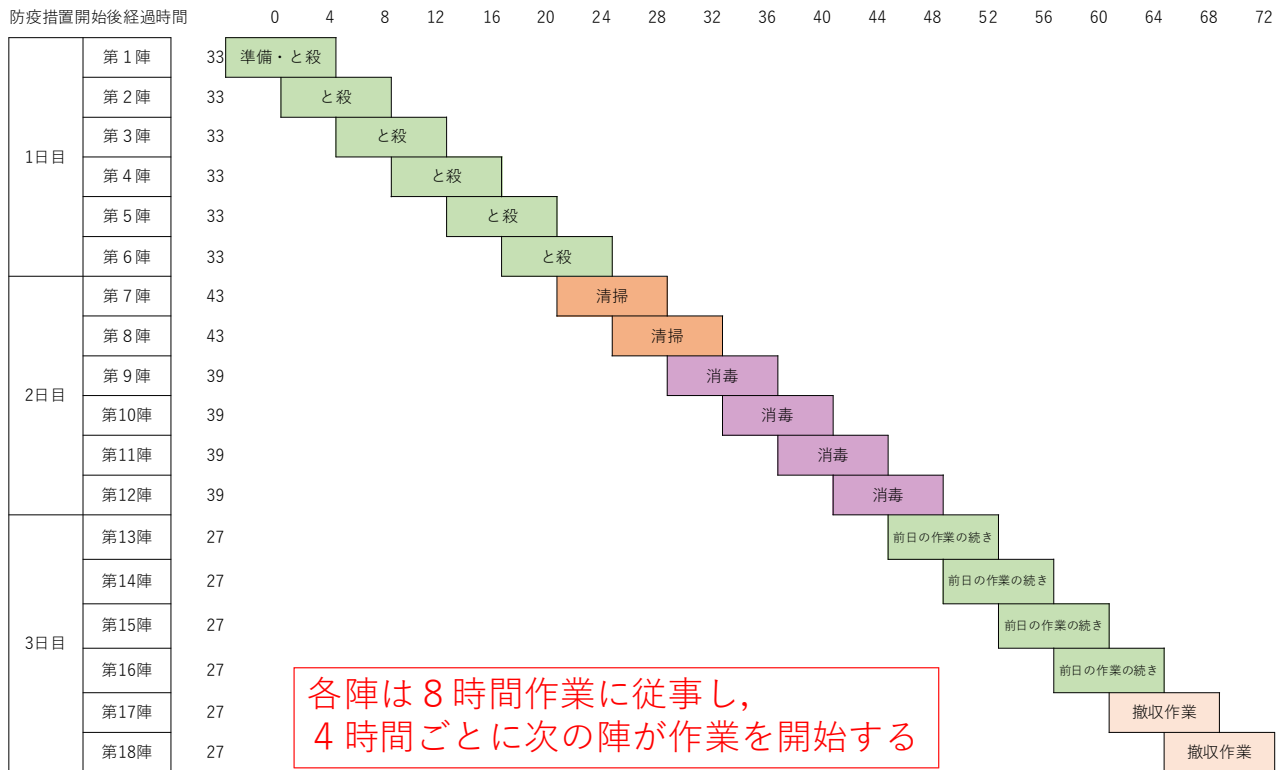
※2 と殺，搬出，積み込み，車両消毒，輸送に適宜分担する。

※3 清掃の前に，必要に応じて埋却の補助作業（ブルーシートの敷設等）に従事する。清掃担当業務の詳細は適宜分担する。

※4 総括等が兼務

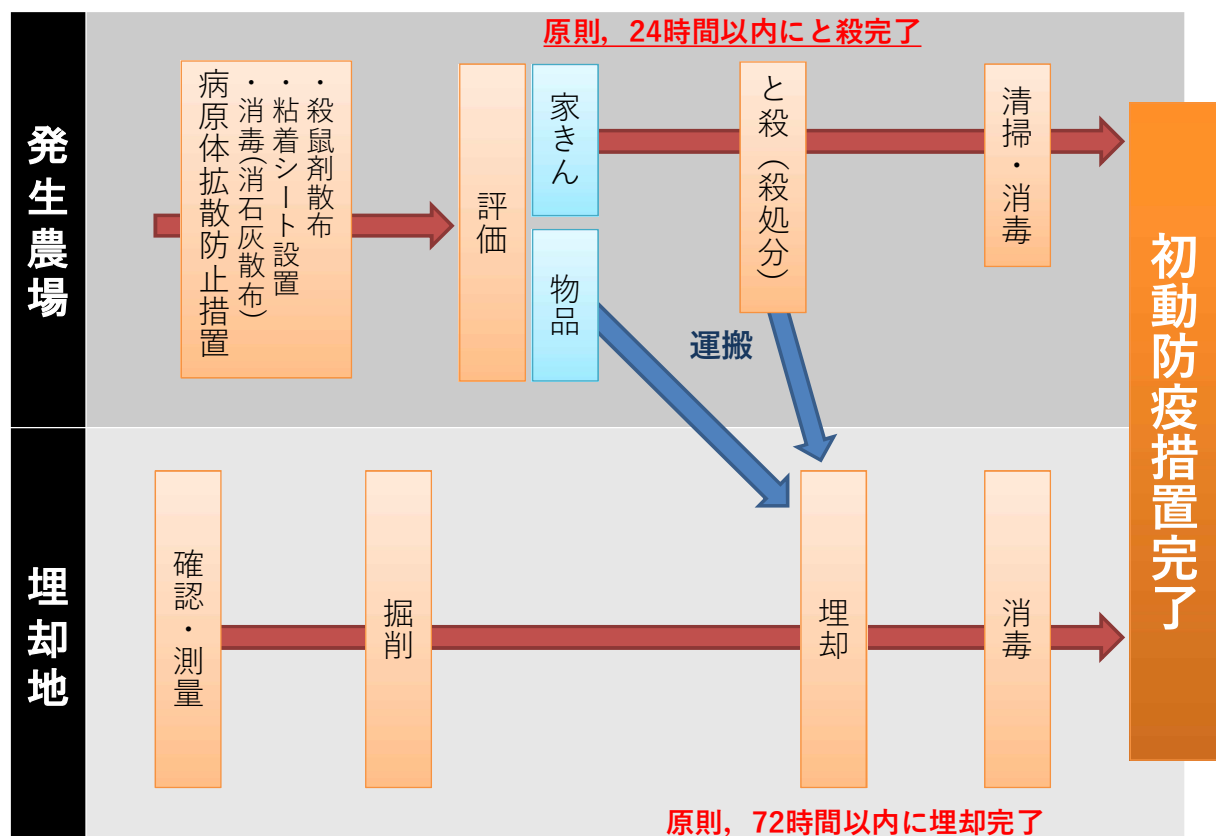
28

発生農場の初動防疫動員計画



29

初動防疫措置のイメージ

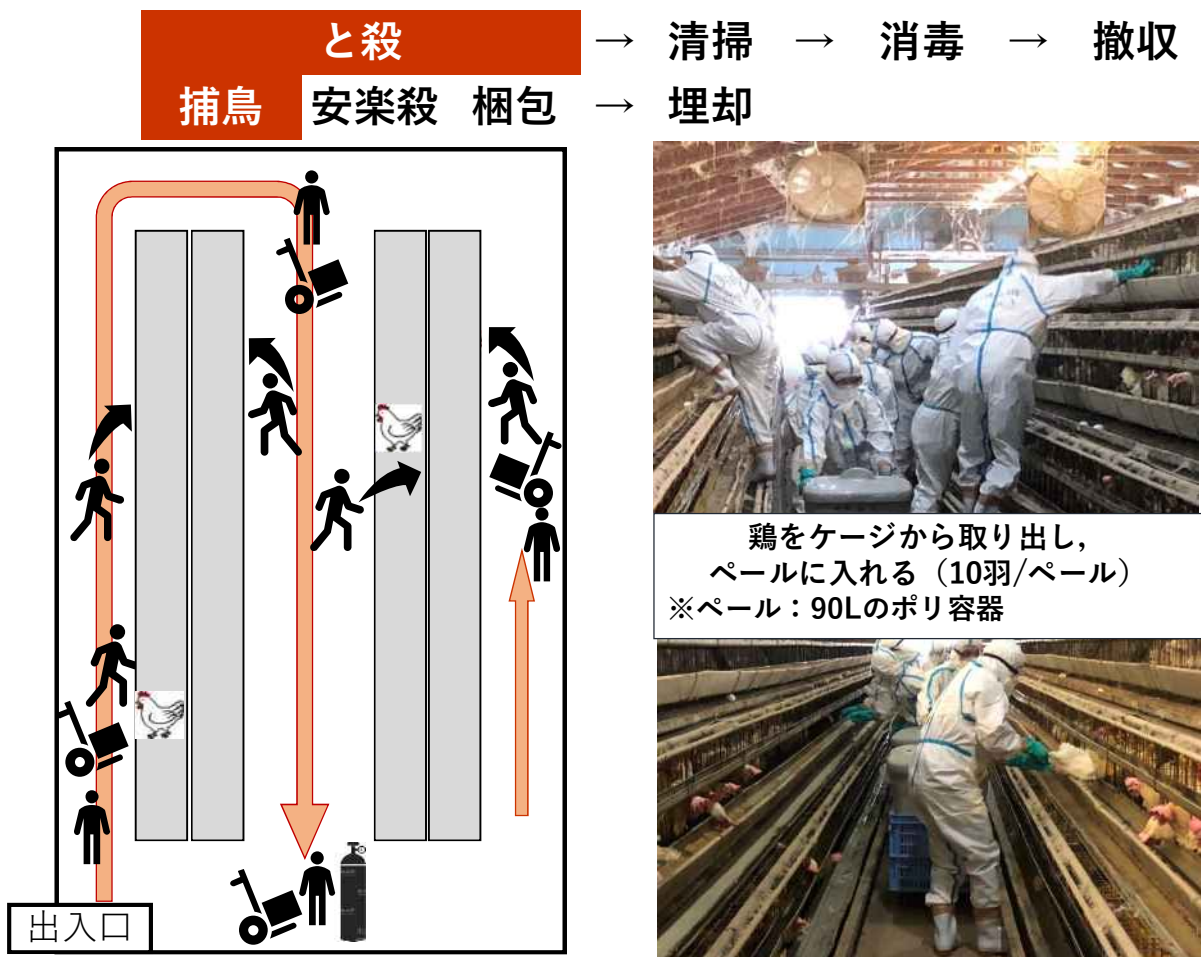


30

病原体拡散防止措置



31



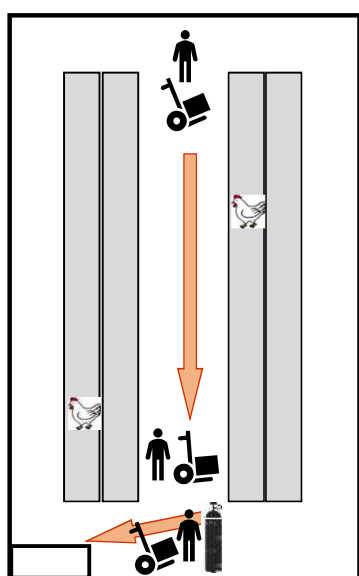
32

と殺 → 清掃 → 消毒 → 撤収
捕鳥 安楽殺 梱包 → 埋却



33

と殺 → 清掃 → 消毒 → 撤収
捕鳥 安楽殺 梱包 → 埋却



- ・鶏舎出入口付近で、ペールの蓋の隙間から二酸化炭素ガスを注入（約5秒）
- ・60～90秒間、鶏が死亡して動かなくなるまで蓋を閉めておく

34

と殺 → 清掃 → 消毒 → 撤収
 捕鳥 安楽殺 梱包 → 埋却



35

と殺 → 清掃 → 消毒 → 撤収
 捕鳥 安楽殺 梱包 → 埋却



- ・処分鶏をフレコンバッグへ投入（飛散防止対策としてペールにビニール袋を入れ、ビニール袋の口を結んで袋ごと投入）
- ・投入した処分鶏の羽数を集計



36

と殺
捕鳥 安楽殺 梱包

→ 清掃 → 消毒 → 撤収
→ 埋却



・処分鶏を入れたフレコンバッグは重機を使って、埋却地へ搬出

37

と殺
捕鳥 安楽殺 梱包

→ 清掃 → 消毒 → 撤収
→ 埋却



集卵室の家さん卵



飼料タンクの飼料



堆肥舎の堆肥

・家さん卵，飼料，堆肥は汚染物品として回収，埋却地へ搬出

38

と殺 → **清掃** → 消毒 → 撤収
 捕鳥 安楽殺 梱包 → 埋却



・排せつ物・塵埃等をかき集める

39

と殺 → 清掃 → **消毒** → 撤収
 捕鳥 安楽殺 梱包 → 埋却



・逆性石けんを用いて、鶏舎内を消毒
 ・家きん卵が入っていたトレイ等も消毒

40

と殺 → 清掃 → **消毒** → 撤収
 捕鳥 安楽殺 梱包 → 埋却



・鶏舎外に消石灰を散布（竹ホウキで床一面にひろげる）

41

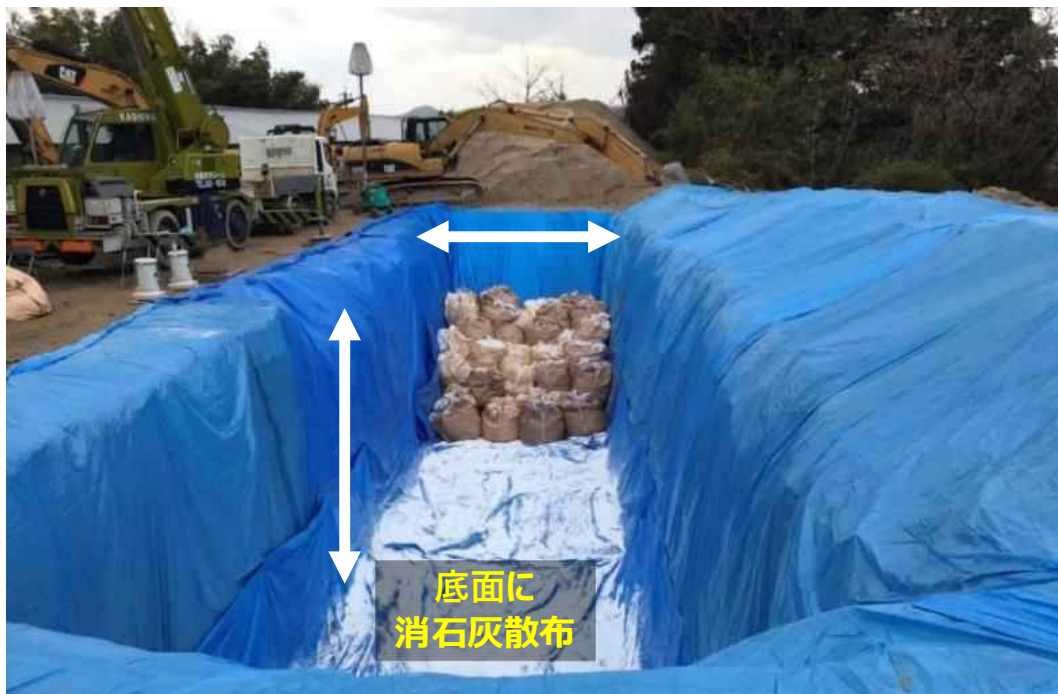
と殺 → 清掃 → **消毒** → 撤収
 捕鳥 安楽殺 梱包 → 埋却



・防疫措置時の消毒を含め 1週間隔で計3回消毒を実施

42

と殺 → 清掃 → 消毒 → 撤収
 捕鳥 安楽殺 梱包 → 埋却



・埋却溝にブルーシートを敷設

43

と殺 → 清掃 → 消毒 → 撤収
 捕鳥 安楽殺 梱包 → 埋却



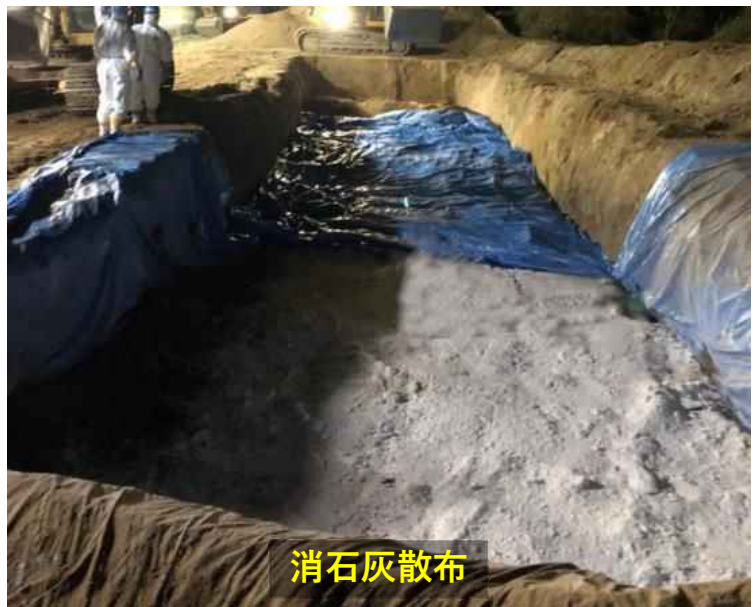
- ・バックホー等を使って，処分鶏の入ったフレコンバッグを埋却溝へ投入
- ・排せつ物や飼料等の汚染物品も埋却溝へ投入

44

と殺 → 清掃 → 消毒 → 撤収
 捕鳥 安楽殺 梱包 → **埋却**



埋却物投入完了



消石灰散布

- ・消石灰を散布し、ブルーシートで覆う

45

と殺 → 清掃 → 消毒 → 撤収
 捕鳥 安楽殺 梱包 → **埋却**



※埋却地 盛り土の例

告

当地は、家畜伝染病予防法第24条の規定に基づき、
 下記のとおり発掘を禁じます。

【病名】 高病原性鳥インフルエンザ
 【家畜の種類】 採卵鶏
 【埋却年月日】 令和6年9月7日
 【発掘禁止期間】 上記埋却年月日から3年間

令和6年9月7日
 ○○家畜保健衛生所



- ・家きん死体等の埋却対象物の上2 m以上の覆土となるよう埋め戻しする
- ・埋却終了後、消石灰を散布

46

と殺 → 清掃 → 消毒 → 撤収
 捕鳥 安楽殺 梱包 → 埋却

9月7日
 防疫措置完了



・使用した器具・機材・車両は、全て消毒してから農場外に搬出

47

と殺 → 清掃 → 消毒 → 撤収
 捕鳥 安楽殺 梱包 → 埋却



・防疫措置従事者は休息時、農場退場時には全身・靴底を消毒

48

と殺 → 清掃 → 消毒 → 撤収
捕鳥 安楽殺 梱包 → 埋却



- ・農場退場時には，装着していたゴーグル，手袋，長靴，防疫服を脱衣して，送迎バスにより集合基地に戻る

49

防疫作業後の留意事項

1. 帰宅後は速やかに入浴し，作業着は洗濯する。
2. 毎日，体温測定・健康状態のチェックを行う。
(作業の翌日から10日間)
3. 体調が悪くなった場合は最寄りの保健所に連絡する。
4. 作業後7日間は鳥類と接触しない。



50

消毒ポイントの運営

運営開始時

各消毒ポイント作業：地域振興局・支庁等

1 か所 に常時 6 名体制で実施

- ・記録 総括係 2 名
- ・車両誘導係 2 名
- ・車両消毒係 2 名

※ 24時間体制（8 時間交替）

準備が整い次第

各消毒ポイント作業：委託業者

- ・交通誘導
- ・車両消毒
- ・記録・証明書発行
- ・消毒用水配送

※ 24時間体制

※ 令和 5 年度発生時は 1 か所 に常時 4 名（2 交代）
+ 消毒用水配送 1 名体制で実施

53

消毒ポイントの概要



・制限区域内から区域外へ向かう車（特に畜産関係車）の消毒を実施

54

消毒ポイントの作業



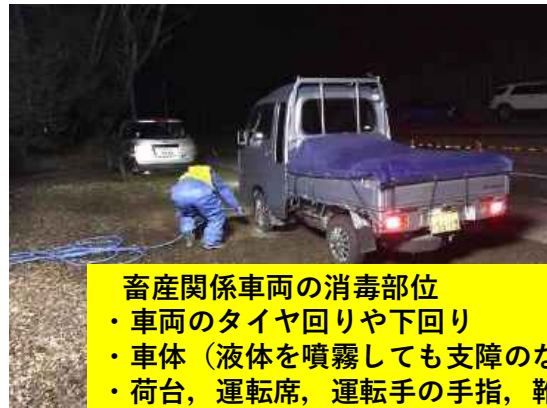
集卵車



家畜運搬車



飼料運搬車



畜産関係車両の消毒部位

- ・車両のタイヤ回りや下回り
- ・車体（液体を噴霧しても支障のない部分）
- ・荷台、運転席、運転手の手指、靴底

55

消毒ポイントの作業

車両消毒証明書

鹿児島県

日	時間	消毒ポイント	消毒ポイント	消毒ポイント
22	13	鹿児島県		

車両消毒記録表

〇消毒ポイント【

担当者 () () () ()

令和 年 月 日

番号	実施時間	乗客名	連絡先	車両番号	積載物・目的	備考
1	：				牛・豚・鶏・牛乳・増肥 死亡獣畜・その他	
2	：				牛・豚・鶏・牛乳・増肥 死亡獣畜・その他	
3	：				牛・豚・鶏・牛乳・増肥 死亡獣畜・その他	
4	：				牛・豚・鶏・牛乳・増肥 死亡獣畜・その他	
5	：				牛・豚・鶏・牛乳・増肥 死亡獣畜・その他	
6	：				牛・豚・鶏・牛乳・増肥 死亡獣畜・その他	
7	：				牛・豚・鶏・牛乳・増肥 死亡獣畜・その他	
8	：				牛・豚・鶏・牛乳・増肥 死亡獣畜・その他	
9	：				牛・豚・鶏・牛乳・増肥 死亡獣畜・その他	
0	：				牛・豚・鶏・牛乳・増肥 死亡獣畜・その他	
例	16:30	〇〇運送	0995 62-3070	12-34	①・豚・鶏・牛乳・増肥 死亡獣畜・その他	



56

消毒ポイントの作業

路上で実施（一般車両）



消毒用マット



消毒槽

57

発生状況確認検査

ウイルスの浸潤状況を確認するため、**疑似患畜
決定後、原則として24時間以内に実施**

- 対象農場：移動制限区域内の農場（家きんを100羽以上飼養する農場に限る）
- 検査羽数：各農場家きん舎ごとに5羽実施
- 検査内容：
 - ・気管スワブ及びクロアカスワブ採材⇒ウイルス分離検査
 - ・血液採取⇒血清抗体検査（エライザ法）

17農場 ➡ **9月5日実施**

【各農場への立入人数】

家畜防疫員	1名
案内係等	1名
各農場2名で立入	合計34名

58

清浄性確認検査

移動制限区域内の清浄性を確認するため、移動制限区域内の
全ての発生農場の防疫措置完了後10日経過した後に実施

発生状況確認検査と同じ検査を実施

- 対象農場：移動制限区域内の農場（家きんを100羽以上飼養する農場に限る）
- 検査内容：ウイルス分離検査，血清抗体検査
- 検査羽数：各農場家きん舎ごとに5羽実施

17農場 ➡ 9月18日実施

【各農場への立入人数】

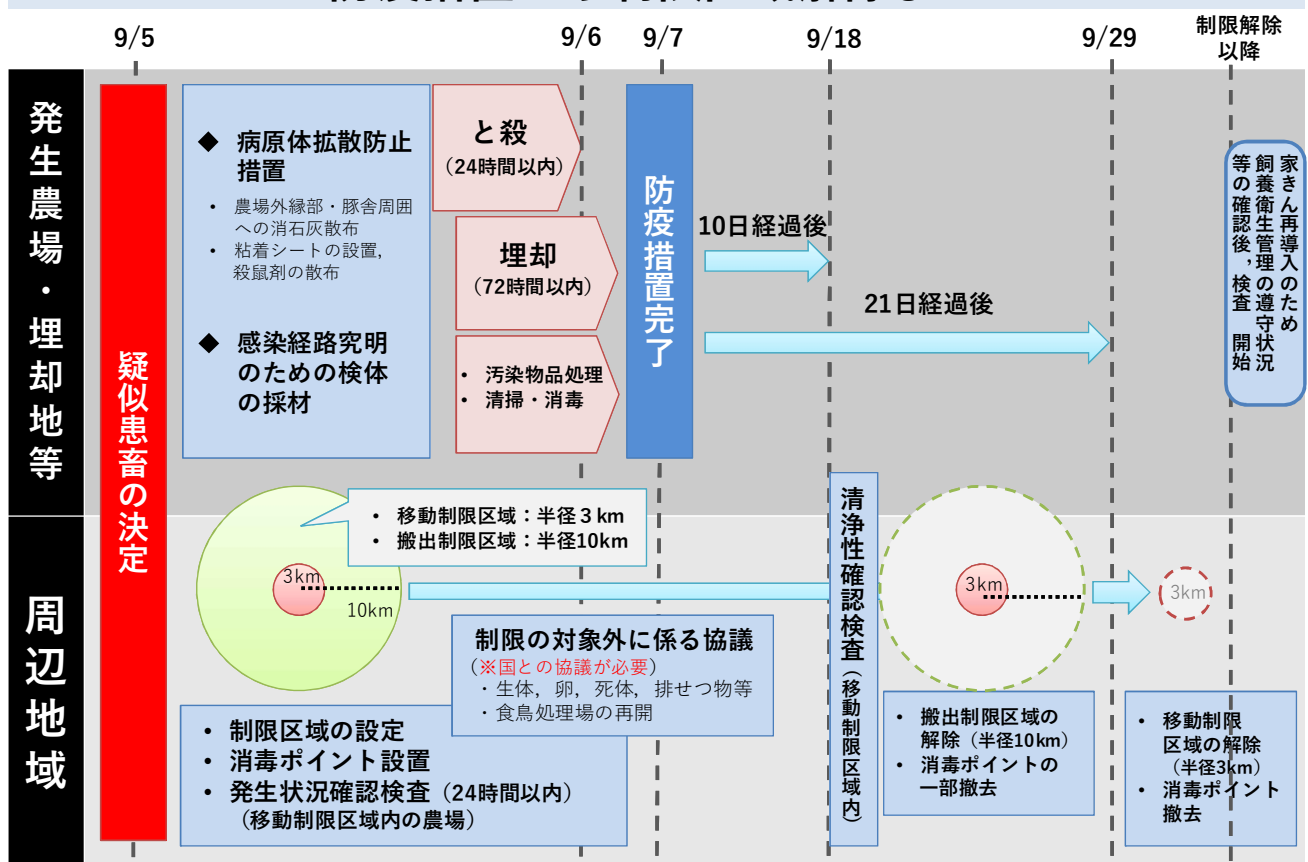
家畜防疫員	1名
案内係等	1名
各農場2名で立入	合計34名

全ての農場で陰性を確認

搬出制限区域の解除（消毒ポイントの一部撤去）

59

高病原性鳥インフルエンザ発生時の 防疫措置から制限区域解除まで



60